

昭和 57 年度論文賞受賞論文の決定

昭和 57 年度情報処理学会論文賞は、同選定委員会（松浦委員長ほか 22 名）において、「情報処理学会論文誌」第 22 巻第 6 号～第 23 巻第 5 号ならびに欧文誌「Journal of Information Processing」Vol. 4, No. 4～Vol. 5, No. 3 に発表された全論文 106 編につき慎重に審議が行われました。その結果下記 4 編が最終候補論文として推薦され、第 265 回理事会（昭和 58 年 3 月）の承認をえて決定されました。

なお、本会表彰規程により、5 月 20 日に開催された第 24 回通常総会において、著者に表彰状と賞金が授与されました。

○ “On Defining Denotational Semantics for Attribute Grammars”

〔欧文誌 Vol. 5, No. 1, pp. 21～29 (1982)〕

武田 正之君（正会員）

昭和 28 年生。昭和 52 年東京理科大学工学部電気工学科卒業。昭和 54 年東京工業大学大学院理工学研究科電子物理工学専攻修士課程修了。昭和 57 年同博士課程修了。



同年 4 月東京理科大学工学部情報科学科助手。工学博士。プログラム言語の意味、証明論、関数型言語、知識ベースシステムに興味を持っている。電子通信学会、ACM 各会員。

片山 卓也君（正会員）

昭和 14 年生。昭和 37 年東京工業大学工学部電気工学科卒業。昭和 39 年同大学院修士課程修了。昭和 39～41 年日本アイ・ビー・エム勤務。昭和 42 年東京工業大学工学



部電子物理工学科助手。現在東京工業大学工学部情報工学科助教授。ノースカロライナ大学計算機学科に滞在中。この間、オートマトン理論、画像処理、言語プロセッサ、属性文法、プログラムの検証、関数型プログラミングなどの研究に従事。ソフトウェアの基礎全般に興味をもつ。電子通信学会、ACM 各会員。

〔論文概要〕

属性文法の表示の意味論と、それに基づく属性評価手法を提案した。属性文法の表示の意味は導出木の節に付加された属性間の最小不動点により定義され、属性評価を行う再帰関数群により表現されている。本論文で提案する属性評価手法はこの表示の意味論に直接基づいており、well-defined な属性文法を含むより広いクラスを扱うことができ、次の特徴を持つ。(1) 評価関数は拡張属性依存グラフを使用せずに、与えられた属性文法の記述から直接導出可能、(2) 求めたい属性に関係する属性だけの評価、いわゆる出力指向な属性評価を行える、(3) この評価手法は LISP 風プログラム言語により容易に実現できる。

〔推薦理由〕

本論文は属性文法の表示の意味論を展開し、それに基づいて属性評価手法を提案している。評価関数の直接導出、選択的属性評価、実現容易性等に特徴があり、論文賞受賞に値するものと思われる。

○ 「COBOL マシンとその設計思想——アーキテクチャについて——」

〔論文誌 Vol. 23, No. 1, pp. 65~71 (1982)〕



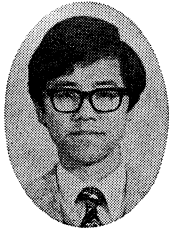
山本 昌弘君 (正会員)

昭和 17 年生. 昭和 41 年大阪大学工学部精密工学科卒業. 同年日本電気(株)入社. 現在, 同社 C & C システム研究所コンピュータシステム研究部研究課長. 高級言語マシン, 知識処理マシンなどの研究開発に従事. 電子通信学会会員.



横田 実君 (正会員)

昭和 25 年生. 昭和 48 年慶応義塾大学工学部電気工学科卒業. 同年日本電気(株)入社. オペレーティングシステムの開発を経て, 昭和 52 年 6 月より同社 C & C システム研究所にて COBOL マシンの研究開発に従事. 昭和 57 年 6 月より (財)新世代コンピュータ技術開発機構に出向中. 現在逐次型推論マシンの研究開発に従事. 非数値処理向計算機アーキテクチャ, プログラミング言語に興味を持つ.



中崎 良成君 (正会員)

昭和 26 年生. 昭和 48 年東北大学工学部電気工学科卒業. 同年日本電気(株)入社. プログラムの動特性解析, 高級言語マシン, 知識処理マシンの研究開発に従事. 昭和 56 年, 米国イリノイ大学に研究留学. 現在, C & C システム研究所コンピュータシステム研究部勤務. VLSI 指向コンピュータアーキテクチャに興味を持つ. 電子通信学会会員.



箱崎 勝也君 (正会員)

昭和 16 年生. 昭和 38 年九州大学工学部電子工学科卒業. 同年日本電気(株)入社. 以来, 中央研究所 (C & C システム研究所) においてコンピュータシステムの性能評価, アーキテクチャ, 高級言語マシン, データベースマシン, 知識情報処理などの研究に従事. 現在, C & C システム研究所コンピュータシステム研究部長. 工学博士. 共著「高級言語マシンの実際」(産報出版). 電子通信学会会員.

〔論文概要〕

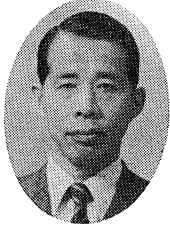
COBOL マシンのアーキテクチャについて, その特徴と設計思想に重点をおいて論じた. COBOL マシンのアーキテクチャは, COBOL 言語仕様にできる限り近づけるように設定し, 多種類の内部データ形式, データディスクリプタ, 高度なデータアクセス機構, 高機能命令などを備えているため, COBOL の大部分のステートメントは COBOL マシンの 1 命令へ展開できる. その結果, 翻訳処理が高速化され, オブジェクトメモリ量も大幅に減少することが明らかになった. 更に, 専用の COBOL マシンを実現することにより, 実行速度も向上した. 本 COBOL マシンは汎用計算機に接続されて, 付加プロセッサとして動作する.

〔推薦理由〕

半導体技術の進歩とともに, 専用プロセッサの開発は当然の傾向であるが, 本論文はそのうち COBOL 言語仕様に適合したアーキテクチャを採用し, コンパイルの最適化を図ったものである. COBOL 言語が多用されている現状に鑑みて, 有意義な開発であり, 論文賞受賞に値するものと思われる.

○ 「科学技術論文表題の英和機械翻訳システム」

〔論文誌 Vol. 23, No. 2, pp. 202~210 (1982)〕



長尾 真君 (正会員)

昭和34年京都大学電子工学科卒業，昭和36年同大学院修士課程修了。京都大学工学部助手，助教授をへて，昭和48年より京都大学工学部教授。昭和51年より国立民族学博物館併任教授。情報処理，特にパターン認識，画像処理，言語情報処理，機械翻訳等の研究に従事してきた。情報処理学会前理事。



辻井 潤一君 (正会員)

昭和24年生。昭和46年京都大学工学部電子工学科卒業。昭和48年同大学大学院修士課程修了。同年京都大学工学部電気第2工学科助手。現在，同学科助教授。人工知能研究一般に興味を持ち，主として自然言語処理・機械翻訳の研究を行ってきた。現在，人工知能の認知科学的な側面に興味を持っている。



矢田 光治君 (正会員)

昭和11年生。昭和35年電気通信大学卒業。電子技術総合研究所において計算機応用システムおよび計算機運用管理の研究に従事。特に実用的な機械翻訳作業環境を開発し，科学技術文献検索システムおよび論文作成システムの適用を推進。現在，同所計算機室長，工業技術院情報計算センタ運営班長を併任。著書「ソフトウェアの知識」など。ACM, IEEE 会員。



柿元 俊博君 (正会員)

1948年生。1971年京都大学理学部卒業。1973年京都大学大学院修士課程修了。同年富士通(株)入社。以来，環境保全モデル，日本語情報検索システム，機械翻訳システムの研究開発に従事。

〔論文概要〕

科学技術論文の表題文の構造は比較的簡単で，約一万文献の表題文について調べたところ，うまく縮約して18の基本パターンを決定することができた。そこでこれらのパターンに対して，対応する日本語の訳語の語順を与え，文構造の解析と合成を行った。しかし構造のあいまいとなる場合もいくつかあり，簡単な意味による決定を導入しなければならなかった。このシステムはINSPECなどの論文表題を日本語に翻訳し，データベース化して検索するシステムにおいて試用され，平均80%，INSPECという特定のデータベースの表題文では93%程度の翻訳率が得られた。

〔推薦理由〕

機械翻訳の歴史は長い，ひとつひとつ地道な探求が必要である。本論文は比較的簡単な構造をもつ科学技術論文の表題文を調べ，基本パターンを抽出するとともに，構文論に意味論を併用してシステムを組立て良好な翻訳率を持っている。機械翻訳開発の一里塚として論文賞受賞に値するものと思われる。

○ 「パステストに本質的な分岐に着目した網ら率尺度の提案」

〔論文誌 Vol. 23, No. 5, pp. 545～552 (1982)〕



中所 武司君（正会員）

昭和 21 年生. 昭和 44 年東京大学工学部電子工学科卒業. 46 年同大学院修士課程修了. 同年 (株) 日立製作所入社. 以来, 同社システム開発研究所において, プログラミ

ング方法論, 言語と処理系, ソフトウェアテストシステム, 構造エディタなどのプログラミング環境の研究開発に従事. 電子通信学会, ACM, IEEE 各会員.

〔論文概要〕

本論文は, プログラム内の全分岐のテスト実行をめざす分岐テスト法において, パス網ら性に本質的な分岐だけに着目する方式を考案し, その有効性を示している. この本質的な分岐の識別は, 被テストプログラムの制御フローグラフに 4 種類の簡約規則を適用して行うが, そのアルゴリズムは, 本質的分岐のみから成る簡約グラフのうちでアーク数最小のものを導く. その結果, パス網ら性をこの簡約グラフ上で考える方式は, すべての分岐を対等に扱う従来方式における品質の過大評価や冗長なテストケース選択などの欠点を改良することを理論的根拠と実験結果によって確かめた.

〔推薦理由〕

プログラムのテストのうち分岐テストはプログラム全体の性能に大きく関係する重要テストであるが, 本論文は簡約グラフ上でパス網ら性を考える方式を提案し, その理論的根拠を示すとともに, 実験によりその有効性を実証している. 論文賞受賞に値するものと思われる.

研究会開催通知

(昭和 58 年 6 月 15 日～7 月 31 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
記 号 処 理	6 月 16 日 (木)	13 : 00～17 : 00	東 北 大	前号参照
	6 月 17 日 (金)	9 : 00～14 : 00	同 上	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 基 礎 論	6 月 24 日 (金)	13 : 30～17 : 00	東 大	同 上
ソ フ ト ウ ェ ア 工 学	6 月 29 日 (水)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
数 値 解 析	7 月 1 日 (金)	13 : 30～17 : 00	同 上	下記参照
グ ラ フ ィ ク ス と C A D	7 月 6 日 (水)	13 : 00～17 : 00	日 本 I B M	同 上
マ イ ク ロ コ ン ピ ュ ー タ	7 月 8 日 (金)	13 : 30～17 : 00	機械振興会館	同 上
日 本 文 入 力 方 式	7 月 13 日 (水)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
デ ー タ ベ ー ス ・ シ ス テ ム	7 月 14 日 (木)	13 : 30～17 : 00	同 上	同 上
コ ン ピ ュ ー タ ビ ジ ョ ン	7 月 14 日 (木)	13 : 00～17 : 00	機 械 技 研	同 上
自 然 言 語 処 理	7 月 15 日 (金)	10 : 00～17 : 00	機械振興会館	同 上
分 散 処 理 シ ス テ ム	7 月 21 日 (木)	13 : 00～17 : 00	商 業 界 会 館	同 上

◆ 第 5 回 数値解析研究会

(発表件数：4 件)

(主査：一松 信，幹事：名取 亮，浜田穂積)

日 時 昭和 58 年 7 月 1 日 (金) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

[東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，国電：浜松町下車，バス：渋谷—東京タワー線東京タワー，等々力—東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車，Tel. 03 (434) 8211]

議 題 (1) 粒径分布推定の計算法とその誤差解析 金谷健一 (群大・工)

[概要] 空間に分布する粒子の粒径分布を 2 次元画像上で推定するステレオロジの計算の各種の数値スキームの比較，誤差の漸近評価，数値実験.

(2) 数値シミュレーション用プログラム言語 DEQSOL

梅谷征雄 (日立・中研)

[概要] 当所にて開発した数値シミュレーション用プログラミング言語 DEQSOL につき，言語の構成，計算スキームの記述方法ならびに処理系の機能を述べる.

(3) 数値予報における最近の諸問題 住 明正 (気象庁・電計室)

[概要] 数値予報は，数多くの数値シミュレーションの中でも，毎日，結果の良し悪しを問われる特殊な分野である. このような数値予報の分野の中で，最近の計算機の進歩と共に，発達した諸技術について述べる.

- (4) 非線型モデルにおける異常振動の例 熊野長次郎 (三菱総研)
 [概要] 非線型モデルを数値解析する場合に, 異常振動に出会うことがある. その具体例について報告する.

◆ 第10回 グラフィックスと CAD 研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 穂坂 衛, 幹事: 井越昌紀, 木村文彦, 松家英雄)

- 日時 昭和58年7月6日(水) 午後1時~5時
 会場 日本アイ・ビー・エム 2階大教室
 [東京都千代田区三番町 5-19, 地下鉄: 半蔵門線半蔵門下車, 徒歩5分, 新宿線九段下下車, 徒歩10分, 国鉄: 市ヶ谷下車, 徒歩10分, 英国大使館裏通り, ダイヤモンドホテルと霞友会館の間. Tel. 03 (265) 4247]
- 議題 (1) 工業用図面における寸法指定情報の計算機処理
 田中敏光, 杉原厚吉, 杉江 昇 (名大・工)
 [概要] 2次元形状に付加された寸法指定情報が適正か否かを判定するプログラムを紹介し, 3面図処理への拡張についても論ずる.
- (2) 3角形面素生成による3次元物体の陰影画表示
 王 来生, 横井茂樹, 鶴岡信治, 三宅康三 (名大・工)
 [概要] 3角形面素を生成する方法は, 3次元物体表示において基本的な役割を果たす. 本文では, 3次元空間中の一つの3角形を表示画面上に投影表示する汎用的なアルゴリズムを示し, 多面体の表示と2変数関数データ表示への応用についても述べる.
- (3) コンピュータ・グラフィックスシステム LINK-1 の現状
 河田 亨, 西村仁志, 出口 弘, 江木康雄,
 白川 功, 大村皓一 (阪大・電気)
 [概要] 16ビットマイコンを並列タイプライン接続したコンピュータ・グラフィックスシステム LINK-1 の手法と性能評価について報告する.
- (4) IBM 東京サイエンティフィック・センターにおけるグラフィック・システムの紹介
 宇野 栄, 杉本和敏 (日本IBM)
 [概要] 当センターにおけるグラフィックスを中心としたシステムの環境とその利用例を紹介し, あわせて実演も行う.

◆ 第27回 マイクロコンピュータ研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 安田寿明, 幹事: 脇 英世, 斉藤 剛)

- 日時 昭和58年7月8日(金) 午後1時半~5時
 会場 機械振興会館 地下3階2号室 (所在地は前記参照)
- 議題 (1) 言語障害者用発声発語訓練装置の開発
 三須直志 (千葉工大), 磯村 恒, 舟久保熙康, 土肥健純 (東大・工)
 [概要] 発声発語の基礎である母音発声に限定し, 障害者の発生母音の抽出・評価・教示をマイコンにてシステム化した.
- (2) 装着型動力装具の開発
 磯村 恒, 舟久保熙康, 土肥健純 (東大・工)
 [概要] 上肢機能麻痺者の運動を補助するモータ駆動の5自由度装具で, 各種入

力装置と結合し、システム化を試みた。

(3) パーソナル・コンピュータによる日本文新入力方式

森田正典 (日電)

〔概要〕 ローマ字変換による日本文入力方式で新配列の鍵盤とパーソナル・コンピュータ向けの変換辞書による操作性の高い入力方式について発表する。

◆ 第 11 回 日本文入力方式研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 高橋秀俊, 幹事: 坂下善彦, 山田尚勇)

日 時 昭和 58 年 7 月 13 日 (水) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 日本語文章と図形を含んだ入力方式の検討 岩井 勇 (東芝)

〔概要〕 日本語文章と図形を総合的に扱えるエディタの機能とその入力, 編集方式について報告する。

(2) 文・音声変換技術を用いた原稿読合せ法の有効性について

壁谷喜義, 影山五良, 石川浩一郎 (横須賀通研)

〔概要〕 文書処理装置などで作成した日本語文章の照合確認方法として, 規則合成音を用いることにより, 視覚照合に比べ修正精度, 速度などの点で優れていることを確認した。

(3) 文字種区分方式 2 ストローク日本文入力法の打鍵特性

山内佐敏 (リコー)

〔概要〕 3 名のタイピストにより打鍵特性を調べた。ビジネスレータをキーボードからデータログにダイレクトに入力し, その特性についての考察を述べる。

(4) カナタイピストでみた指の運動特性について 渡辺定久 (電総研)

〔概要〕 カナ漢字変換用カナけん盤の標準化に必要な資料を収集する目的で被験者 16 名による入力実験を行った。実験の内容と結果の概要について述べる。

◆ 第 36 回 データベース・システム研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 酒井博敬, 幹事: 有澤 博, 吉田郁三)

日 時 昭和 58 年 7 月 14 日 (木) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) 検索論理における拡張汎化制約の利用

三浦孝夫 (三井造船), 有澤 博, 盛屋邦彦 (横浜国大・工)

〔概要〕 主体一連想モデルを構造的に表現するとき, その検索論理の構築に形式論理による汎化関係を考え, 検索の最適化が行えることを述べる。

(2) データベース論理設計におけるトランザクションモデリングについて

酒井博敬, 堀内 一 (日立)

〔概要〕 E/R モデル上に実体の動態を記述する手段と, そこにおけるトランザクションの分析とモデル化手法について報告する。

(3) 米国における分散データベースシステム研究開発の現状

増永良文 (図書館情報大)

〔概要〕 本年 3 月までの 1 年間客員研究員として従事していた IBM サンホゼ研

究所の米国における DB システムの研究開発について述べる。

- (4) 1983 年度 ACM SIGMOD 国際会議報告 上林弥彦 (京大・工)
〔概要〕 上記の国際会議, DB 製品展示および, 会議に先だって実施された OA, エンジニアリング関係の DB スペシャルセッションについて報告。

◆ 第 25 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 辻 三郎, 幹事: 木戸出正継, 杉原厚吉)

- 日 時 昭和 58 年 7 月 14 日 (木) 午後 1 時～5 時
会 場 通産省工技院機械技術研究所 第 1 会議室 (本館 1 階)
〔茨城県新治郡桜村並木 1-2, 国鉄: 荒川沖下車, 関東鉄道バス: 筑波大中央行
で並木 2 丁目下車徒歩 5 分. Tel. 0298 (54) 2596〕
- 議 題 (1) 手書設計図面読取装置
恒川 尚, 吉野義行, 森 和宏, 岡崎彰夫 (東芝総研)
〔概要〕 手書設計図面の認識処理に適したシステム構成と, シーケンス図面への
応用例について報告する。
- (2) 分割統治法を利用した線形時間並列画像処理アルゴリズムの設計
梅尾博司 (大阪電通大・工)
〔概要〕 高速化アルゴリズム設計の一手法として知られている分割統治法を, 完
全並列型アレイ・イメージ・プロセッサ上で画像処理アルゴリズム設計に
適用し, $n \times n$ 画像の連結要素ラベリングが $O(n)$ の時間で可能なことを
明らかにする。
- (3) 偏光情報から幾何モデルに基づいて光沢物体を認識する一手法
越川和忠, 寺師泰代, 白井良明 (電総研)
〔概要〕 偏光照明した光沢物体からの正反射光の偏光状態から面の向きを求め,
幾何モデルに基づいてその物体を認識する手法を述べる。
- (4) ハイ・パスフィルタによる X 線画像画質改善
周藤安造, 梅村祥之 (東芝・医技研)
〔概要〕 X 線画像に種々のハイ・パスフィルタをかけ画質改善を試みた。フィル
タリング条件はパラメータ指定により任意に変えることができ, それによ
り目的にあった種々の効果が得られる。
- (5) 図形のエントロピ
福井郁生, 中村達也 (機械技研)
〔概要〕 図形の自己相関関数を確率密度関数と考え, これを「情報理論」に通用
する。これは画像評価関数ともなり, 2 値 (0, 1) のみをとるパターンに通
用する。

◆ 第 38 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 9 件)

(主査: 長尾 真, 幹事: 田中穂積, 辻井潤一, 野村浩郷)

- 日 時 昭和 58 年 7 月 15 日 (金) 午前 10 時～午後 5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
- 議 題 (1) 自然言語および図形理解のための形容詞の概念の分類
——単純概念の場合 岡田直之 (大分大・工)
〔概要〕 形容詞で表される属性概念のうち, 要素的概念に分解できない“単純概

念”について分類を行っている。

(2)～(9)は科学技術庁機械翻訳プロジェクトの研究報告

(2) 科技厅機械翻訳プロジェクトの概要 長尾 真(京大・工)

〔概要〕 研究目的, 研究組織, 翻訳方式, 開発の進め方などについて概要を述べる。

(3) 形態素解析 坂本義行(電総研)

〔概要〕 本プロジェクトにおける日本語と英語の形態素解析処理について述べる。日本語では, 入力処理, mutiple-path 方式による分ち書き処理, 構文情報付与処理, 英語では屈折を中心に派生語尾処理, 品詞推定処理について述べる。

(4) 文法記述用ソフトウェア GRADE 中村順一(京大・工)

〔概要〕 機械翻訳における入力言語の解析, 出力言語へのトランスファ, 出力言語の生成のための文法を統一的に記述するための文法記述システム GRADE を開発した。これについて報告する。

(5) 日本語構文解析 辻井潤一(京大・工)

〔概要〕 日本語論文抄録にあらわれる表現を構文解析の観点から整理し, 文法記述言語 GRADE を使った日本語構文解析の処理手順について報告する。

(6) 変換過程の基本設計 西田豊明(京大・工)

〔概要〕 機械翻訳システムのトランスファ・生成部の基本設計について述べる。トランスファは依存格構造のレベルで行い, 訳語選択・構造変換を行う。

(7) 語の収集と体言を中心とする辞書について 中井 浩(JICST)

〔概要〕 本プロジェクトにおける, 語彙の量的推定とその収集体制, 辞書 DB の構造および各語の属性情報の設定について, 膨大な量になると推定される, 体言的な専門用語を中心に報告する。

(8) 格構造を中心とした用言と付属語辞書 坂本義行(電総研)

〔概要〕 日本語構文解析における用言の格構造分析を行い, 格支配関係を決定した。用言と付属語についてその辞書記述形式と辞書引きシステムについて述べる。

(9) 機械翻訳総合システムの基本設計

矢田光治(電総研), 長尾 真(京大・工)

〔概要〕 翻訳プログラムや翻訳辞書を実用するための pre-editing・post-editing などの機械翻訳作業環境システムについて報告する。

◆ 第 19 回 分散処理システム研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 野口正一, 幹事: 白鳥則郎, 河岡 司)

日 時 昭和 58 年 7 月 21 日 (木) 午後 1 時～5 時

会 場 商業界会館 2 階大会議室

〔東京都港区麻布台 2-4-9, 地下鉄: 日比谷線神谷町, バス: 渋谷一東京タワー線
東京タワー, 等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, 飯倉交差点角
Tel. 03 (584) 7311〕

議 題 (1) 分散型グラフィックスシステム

大金顕二, 田中英彦, 元岡 達(東大・工)

〔概要〕 グラフィックス処理をホストとローカル計算機に分散させた分散型グラフィックスシステムについて報告する。

(2) スロットを用いたループネットにおけるノード間相互依存性について

照屋 健 (琉球大), 白鳥則郎, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 スロットを用いたループネットにおいてノード間の相互依存性が待ち行列表などに与える影響について検討する。

(3) DCNA におけるエンド-エンドのデータ転送方式

森野和好 (横須賀通研), 田部幹雄 (日電), 伊藤 健 (日立)

武田浩一 (富士通), 井出政司 (沖電気)

〔概要〕 各種通信回線に適合可能とする OSI ネットワーク層の構造およびその品質に対応した OSI トランスポート層の機能の検討結果に基づく拡張機能を述べる。

(4) OSI 参照モデルにおけるトランスポート, セッション・レイヤ・プロトコルについて

鈴木健二, 浦野義頼, 小野欽司 (KDD研究所)

〔概要〕 開放型システム間相互接続 (OSI) に関して ISO, CCITT において行われている標準化の動向, 両者の比較対応について述べる。

(5) 階層化プロトコルを実現するプログラムの検証論理の生成法

荒木哲郎, 高田賢次, 吉武静雄 (横須賀通研)

〔概要〕 プロトコル製品を検証する際のエラーに関する検証法 (検証理論と呼ぶ) を体系的に求めるための手法を提案する。

(6) 会話形式によるプロトコル検証システム

覚埜高音, 石坂充弘 (三菱電機)

〔概要〕 通信プロトコルの設計の効率化をはかるため, プロトコルの作成, 検証, 修正などを会話形式で支援するシステムを開発したので報告する。

◆ ソフトウェア基礎論研究会

前号本欄にてお知らせいたしました, 第5回 研究会会場に変更がありましたのでお知らせいたします。

日 時 昭和 58 年 6 月 24 日 (金) 午後 1 時半～5 時
会 場 東京大学理学部 1 号館 350 番教室

58 年度会費の納入について

去る 6 月上旬に、本年度会費未納の方に、郵便振替用紙によって、標記のお願いをいたしました。ご承知の通り、会費は前納制を原則としますので（すでに多くの方がたは納入済みです）、早急にご納入くださいますよう、よろしくお願いします。

なお、7 月末日までに納入いただけない場合には、9 月号から会誌の送付をストップいたしますのでご注意ください。

また、ストップしました会誌は、その後会費を納入されても配付を受けられないことがありますので、ご承知ください。

（3 月号本会記事欄掲載の会費の徴収および学会誌の配付に関する細則を参照ください。）

東海支部が中部支部へ名称変更

去る 5 月 10 日に開催された第 2 回東海支部総会で、懸案になっていた福井・石川・富山の北陸 3 県を東海支部に含めることになりました。これにともない名称が中部支部に変更されました。

これまでの東海支部会員ならびに北陸地区に在住または勤務されている会員はご注意ください。

会費滞納会員の除名について

本年 5 月 20 日に開催された第 24 回通常総会において、情報処理学会定款第 12 条にもとづき、昭和 54 年度およびそれ以前からの会費滞納者 2,290 名の除名が議決され、5 月 20 日付で除名しましたので、ここに会告します。

なお、今後は会費の滞納が 1 か年以上におよぶときは、総会の議決により、除名される場合がありますので、ご注意ください。



IFIP Congress 83

(第9回 世界コンピュータ会議)

Sept. 19-23, 1983

パリ

IFIP Congress 83 の開催も間近となりました。6月30日を過ぎると登録費の割引がなくなりますので、出席予定のかたは早急に登録されることをおすすめいたします。

このほど詳細な案内書が届きました。その内容の項目は次のとおりです。(案内書の必要なかたは、240円(3～5部るとき350円)切手同封のうえご請求ください。)

Dates and Places of Congress and Exhibition, Registration, Method of Payment, Confirmations-Cancellations, Hotel Reservations, Address of the IFIP Congress '83 secretariat, Organization Committee-Program Committee, Technical Program Summary and Congress at a Glance, Opening Session, Detailed meeting program, Closing session, The Organizers, Social Program and Special Exhibits, Technical visits, Exhibition, Sight-seeing Program, IFIP Congress '83 Correspondents, Promosalons Correspondents, Registration form

支 部 だ よ り

中部支部 講演会 開催のお知らせ

下記により講演会を開催いたしますので、奮ってご参加ください。

記

日 時	昭和58年7月5日(火) 14時～16時
場 所	愛知会館(名古屋市千種区赤荻町 2-52, Tel. 052 (936) 5171) 国鉄中央線千種駅西隣り、地下鉄東山線千種駅下車すぐ。
講 演 者	鳥脇 純一郎(名古屋大学)
演 題	最近のディジタル画像処理
参 加 費	無料(参加資格は問いません)
共 催	電子通信学会東海支部、情報処理学会中部支部

支 部 だ よ り

九州支部「ソフトウェア工学講習会」開催のお知らせ

昨年 9 月に学習院大学で行われた第 6 回 ICSE の講習会は、600 名近くの参加があり、大好評をえました。このたび九州支部会員の要望に応じて、標記の講習会を下記により開催することにいたしました。多数参加されますようおすすめいたします。

期 日 昭和 58 年 8 月 29 日(月), 30 日(火)
場 所 九州大学工学部防音 101 講義室 (福岡市東区箱崎)
参 加 費 下記申込書参照
定 員 150 名
申 込 先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九大中央計数施設内
情報処理学会九州支部 Tel. 092 (641) 1101 (内線 5986)
プログラム 前号本欄参照

き り と り

受付 No. _____

昭和 58 年 月 日

「ソフトウェア工学講習会」参加申込書^注

申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 〒 _____

Tel. _____

標記講習会の参加を下記によって申し込みます。

○参 加 費 (該当するものを○印でかこむ)。

一般 (会 員)	7,000 円	} 講習会テキストを含む
一般 (非会員)	10,000 円	
学生 (会 員)	2,000 円	} 講習会テキストを含まない
学生 (非会員)	4,000 円	

○送 金 方 法

_____ 円を _____ 月 _____ 日送金します (金額, 送金月日を記入のうえ該当する送金方法を○印でかこむ)

a. 現金書留

b. 銀行振込 福岡銀行箱崎支店普通預金口座番号 1272841

名義 情報処理学会九州支部講習会

その他 (連絡事項をご記入下さい)

注) 申込書は 1 枚 1 人として下さい (この用紙をコピーしたものでも可)。